

# 瓢箪山周辺 ～いにしえの息吹を感じる～コース

## ① 瓢箪山稲荷神社 瓢箪山古墳

社伝によると、天正 11 年（1583）豊臣秀吉が大坂城築城の折、巽の方角三里に家宝を納めて城の鎮護とするため伏見桃山城より「ふくべ稲荷」を勧請したのが始まりと伝えられています。貞享 5 年（1688）の村絵図にも瓢箪形の山が描かれ「いなり」と記されています。往来する人の言動・持ち物などで事を占う辻占いで有名になった神社です。

本殿が建っている場所は、南北に円丘が並ぶ全長約 50m の双円墳、瓢箪山古墳の西側くびれ部にあたります。

## ② 東高野街道と一里塚跡

瓢箪山駅の踏切をはさんで南北につながる商店街の道が、京都と和歌山の高野山をつなぐ東高野街道（京みち）です。街道から鳴川峠越えの道が分かれるところの角に一里塚がありました。江戸時代の古図に松の木のある塚が描かれており、この塚の上に建てられていた法華塔が安養寺に移されています。

## ③ 株式会社ロブテックス

1888 年、輸入バリカンに代わるものとして両手式バリカンを発明し、20 世紀に入ると当時日本一の規模を誇る工場で理髪用バリカンを生産、理容業界に広く普及しました。又、モンキレンチの国産化、製造を開始。やがて国産初の全型打鍛造を成功させ、工具業界に確固たるポジションを確立。以後、幅広いニーズに対応する「ロブスター」ブランドは、絶大な信頼を得るまでに至りました。

## ④ 出合地藏

出合地藏は、安養寺を北へ行った地藏堂にまつられています。来迎印阿弥陀像と地藏像が半肉彫りしてあります。この石仏はもと鳴川峠道の出合というところの岩壁に彫られた磨崖像の一部を切り取ったものです。

## ⑤ 安養寺

安養寺は、大龍山と号する浄土真宗の寺院です。永正 2 年（1505）の年号がある阿弥陀如来画像の背面に平岡郷四條村の惣道場として開かれたことが記されており、市内の寺院に残る最も古い記録です。本堂前庭に建つ法華塔は東高野街道の一里塚に建てられていたものです。花崗岩製の江戸末期の作で、塔身 4 面に釈迦・弥陀などが彫られています。

## ⑥ 空川地藏

空川地藏は、鳴川峠越の道を安養寺へ行く途中にあります。地藏像花頭窓の前に板張りがあり、花頭窓を透かして胸のあたりまでしか見えません。下部は欠損しており、現在の高さは約 1.3m、花崗岩製の大きな像です。昔この道沿いに空川（地藏谷川）という川があり、この川からみつかりました。

## ⑦ 歯神さん

明治 2 年（1869）9 月、堺県役所に出された文書によると「四條各地で井戸を掘ったりすると武具や遺骨が出土する。たたと困るので・・・ということでもつられた」とあります。

説明碑には、四條村は南北朝時代に、正平 3 年（1348）の四條縄手の戦いとき、楠木正行の家来、和田賢秀が歯で敵の刀を噛み切ったという言い伝えから、歯神さんをまつたと記されています。

## ⑧ 分水樋

鳴川峠から流れる水を、水門で四條村の空川（地藏谷川）と六万寺村の長門川とに等分に分けるための石樋です。川の分岐部に石垣の護岸を築き、その下部に湧水期の水流を二股に導く樋を設置した造りは精密で、江戸時代の厳密な水利慣行をあらわす貴重な遺構です。

## ⑨ 二本松古墳

一辺約 15m、高さ約 4.5m の方墳で、市内で 2 番目に大きい横穴式石室が完全な形で残っています。石室内は通路としての羨道と奥の墓室である玄室に分かれています。

両袖式の石室は玄室 4.5m、幅 2.2m、羨道内に入って見学することができます。平成 3 年 9 月に、所有者より東大阪市に寄贈を受け、平成 4 年 4 月に東大阪市文化財保護条例により史跡に指定されています。

## ⑩ 往生院六萬寺・楠木正行墓・民具供養館

往生院のある場所は極楽に繋がる四天王寺西門から真東にあたり、平安時代の長暦年間（1037～1040）に安助上人によって極楽往生を願う浄土信仰の場として建立されました。

現在の往生院六萬寺の北方山中には鎌倉時代の建物基壇が残されています。応仁の乱で島山氏一族が争った文明 9 年（1477）に往生院城として使用され荒廃しましたが、承応 2 年（1653）に僧の欣浄浄泉が再興しました。

寺には本尊の木造阿弥陀如来座像及び両脇侍像など平安時代の優れた彫刻があります。古墳時代の盾庇付冑と共に府の文化財に指定されています。境内の西側に南北朝時代の正平 3 年（1348）四條縄手の戦いで往生院より出陣し、北朝方の軍勢と戦った楠木正行の墓があり、市の史跡に指定されています。

現在、古い民具を展示する民具供養館を開館し、民具を通して子供たちに物の大切さなどを話されています。今では貴重なものが多く三千点以上を数えています。入館料／無料※見学は事前に申込みが必要（お彼岸・お盆・土日祝は基本的に不可）TEL／072-981-2597

## ⑪ 十二社権現寺

往生院六萬寺の西側にある十二社権現寺は、熊野十二社権現がまつられていて、権現の森と呼ばれています。寺は、江戸時代の末期に衰退し、明治のはじめに梶無神社へ合祀された後、大正時代末期から昭和初め頃に再び修業場として聞かれました。

## ⑫ 梶無神社とアオバスク

社は「延喜式」神名帳にのせられた式内社で、瓢箪山駅の南西にあたる字梶無という地が旧社地といわれています。『石清水文書』にのせられた延久 4 年（1072）の太政官牒には、肆条梶無里と記され、古い社地の存在が考えられます。

境内には、アオバスクが中国南部～フィリピン方面より毎年飛来し、雛を育てた後、越冬のため再び戻っていきます。この繁殖地は市の天然記念物に指定されています。

## ⑬ 発掘ふれあい館（東大阪市立埋蔵文化財センター）

平成 14 年（2002）に、遺物の保存・整理・展示・調査に加え、体験学習の機能も有した施設として開館。遺跡から発掘・復元された土器に実際に触れることができます。また、古代の装飾品の勾玉・土器づくり、火おこしなどさまざまな体験プログラムがあります。（材料費がかかるものがあります）

入館料／無料

開館時間／9:30～16:30

休館日／月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日）・祝日の翌日・年末年始

TEL／072-983-2340 FAX／072-982-9411

## ⑭ 縄手遺跡

縄手小・中学校を中心に南四條町一帯に広がる縄文から古墳時代の遺跡で、とりわけ近畿地方では有数の規模の大きな縄文遺跡として知られています。発掘調査により竪穴住居跡・炉跡などの集落跡がみつかりました。二上山産のサヌカイトで製作した石鏃、石斧、網の石製の錘等や、シカやイノシシの骨もみられます。

古墳時代前期末（4 世紀末）に築かれた径約 30m の円墳の中には須恵器や土師器のほか韓式系土器や製塩土器、ウマの歯、フィゴの羽口などがみられます。鉄製品の加工やウマの飼育を行っていたことがわかります。

## ～東大阪まち歩きのご案内～

東大阪市内には石切劔箭神社や枚岡神社などの神社仏閣だけでなく、司馬遼太郎記念館や田辺聖子文学館などの文化施設、また市内の駅には賑わう商店街など多くの資源が存在します。地図を片手にご自身のペースで歩いて歴史や町並みをじっくり楽しんでみてはいかがでしょうか。

### まち歩きコース

日下・石切周辺 文学散歩 ..... 近鉄石切～新石切駅周辺

帝キネが愛したまち東大阪 ..... 近鉄永和～河内小阪～八戸ノ里駅周辺

ラグビーのまち東大阪 ..... 河内花園～近鉄東花園駅周辺

### 東大阪まちガイドボランティアの派遣

条件:利用は10名以上の団体、1回につき2～3時間程度

費用:10～14名の場合はお一人あたり200円(資料代)、15名以上の場合は団体で3000円

※入館料・保険料は含まれません。

※まち歩きガイドは限られた人数で対応いたしますので、ご希望に添えない場合があります。

### 東大阪まちガイドボランティア“ちょこボラ”募集!

東大阪のまちに関心のあるちょこっとボランティアをしたいと思っておられる方、どなたでもご参加できます。

随時募集しておりますので、お気軽にご相談ください。



お問合せ先

東大阪観光協会

〒577-8521 東大阪市荒本北1丁目1番1号

Tel : 06-4309-3230 Fax : 06-4309-3846